

直木賞作家、今村翔吾さんらと交流

日吉台小夢プロ事業



日吉台小で講演を行ない児童らと交流する今村さん(左)

日吉台小学校は9月21日、大津市教委が進める「学校夢づくりプラス・作家等との交流事業」を実施、直木賞作家で大津市在住の歴史小説家、今村翔吾さんとモチベーションナルスピーカー、株式会社TARO代表、熊木太郎さんを招き、今村さんらは、6年生児童38人らを対象に同校集会室で講演などを行い交流した。

今村さんと熊木さんらは、子どもたちを前に「本の出会い」について講演。今村さんは「本を読むことは人と人との出会いといふ。本を読むことで(本には)いっぱい答えが書いてある。今読むとめっちゃや得をする」と子どもたちにユーモアを交えながら読書の大切さを訴えていた。

このあと、「サンキュレター」を書いてみようをテーマに子どもたちとワークショップを行い、手紙の書き方、書くポイントなどをアドバイスした。この日、佐藤健司大津市長も交流事業に顔を見せ、今村、熊木さんと子どもたちとのふれあいの場を熱心にメモ取りしながら見学していた。



琵琶湖の環境と暮らしをテーマに討議する日吉子どもサミット参加の児童、生徒たち

日吉子どもサミット開催

琵琶湖の環境、暮らしをテーマに討議

子どもたちの目線で地域の課題解決や街づくりを考える「令和5年度日吉子どもサミット」が夏休み中の8月22日、大津市坂本の比叡ふれあいセンターで開かれ、県が提供する「琵琶湖版SDGs」の取り組みをテーマに協議し、交流を深めた。子どもサミットは、日吉台、坂本、下坂本の4

小と比叡山、日吉の2中学校の児童会、生徒会で構成されたリーダー養成を目的とした組織。日吉ブロック地域の課題を浮き彫りさせ解決に向けての検討や提言などのほか、アルミ缶回収活動によるユニセフ募金活動ほか、ヨシ刈り、花のまちづくり、ふるさと大掃除、クリーン作戦などの地域活動を展開してきた。

なごやかに敬老のつどい 学区社協主催、4年ぶりの開催



日吉台小で子どもたちがに野菜づくり体験ポラティアをして「ふれあい農園」(森育寿代表)は、秋恒例の「ビオラ・パン

敬老月間の9月17日、学区社会福祉協議会主催の「敬老のつどい」が日吉台市民センターで開かれた。参加したお年寄りたちは、式典のあと繰り広げられたアトラクションに参加、残暑が厳しいなか楽しいひとときを過ごしていた。

この日のサミットでは、子どもたちは、各校区での活動、取り組みを報告したあと、「琵琶湖版SDGs」の「MLGs」(マザーレイクゴールズ)について各小学校校区に分かれ討議、琵琶湖の環境を守りながら私たちの暮らしを持続可能なものにするためどうすればよいか、地域の人たちを交えて話し合いを行った。

空き家対策で調査ヒアリング 呉工業高専教授、学区訪問



日吉台市民センターで聞き取り調査をする篠部裕呉工業高専教授(中央)

学区で行なう空き家対策事業の取り組みと今後の課題などを調べるため広島県呉市の呉工業高等専門学校副校長で建築学科教授の篠部裕さんが9月16日、日吉台学区を訪問、日

吉台市民センターで、学区空き家対策委員の濱崎博事務局長ら対策委員らから調査研究のヒアリングを行った。

同学校篠部研究室では、地元自治会や、NPO、一般社団法人などが実施する空き家、

空き家問題の解決、改善に取り組み全国の先進事例を対象に今後の空き家、空き地対策の整備体制のあり方を構築するための調査、研究に取り組んでいる。調査の過程で日吉台学区空き家対策委員が、自治会として大規模住宅地としての空き家対策事業に取り組んでいることを知り、調査対象の一つに組み入れた。学区のヒアリングには、濱崎事務局長ほか、野々

花苗の販売受け

ふれあい農園

当日販売には、数量に限りがあり、主催者では購入予約を推奨している。購入予約の申し込み、問い合わせは森さん(0

計画している。販売方式は、購入予約と10月29日午前10時、旧滋賀銀行日吉出張所前で行う当日販売がある。例年行なっていた「野菜マルシェ」とのコラボは、農園の野菜が不作のため取り止め、花苗販売の単独開催とした。

参加対象者を今年、75歳以上から80歳以上に引き上げ、この日は84人が参加した。式典で呉屋之保・学区社会福祉協議会会長が「元気な顔をみせていただきうれしく思います」とあいさつ、来賓として出席した佐藤健司・大津市長が「コロナ禍でできなかった顔合わせ、体動かせることが元気の秘訣。市としてもみなさんの日ごろの活動に支援を続けたい」と激励、お祝いの言葉を述べた。

このあと今年百歳と米寿を迎えた参加者にお祝いの記念品が贈られた。(敬老のつどいに来賓として出席、お祝いのごとくを述べる佐藤市長)